

ふくしま農業女子ネットワーク 農女ぴより



百笑一姫の
Fukuがある
ネットワーク
のロゴマーク



観光化を目指して整備中
の「食べるコスモス畑」

◆ふくしま農業女子ネットワーク（愛称：百笑一姫♡Fukuがある）
農業女子同士の交流・連携を深め、技術の向上を図ろうと、県内の女性就農者や就農希望者65人で構成。福島民報社をはじめ、県内の30企業・団体が「応援団」として登録している。農産品を使
った加工品の共同開発や情報発信、経営力向上、販路拡大などに連携して取り組む。メンバー、応援団となる企業・団体を随時募集している。URLは<https://www.fuku-girl.jp/>
問い合わせは事務局 県農業担い手課 電話024(521)7340へ。



佐藤 さとう
昌子さん（いわき市）

「食べる花畑」目指す

昨年、50代で新規就農しました。いわき市平の「ファミリーファーム」で、食べられる花「エディブルフラワー」やハーブなどを中心に栽培しています。農地も、農業の知識や経験も、農業機械もない。「ないない」屋敷のスタートでしたが、女性でも、中高年でもできる農業を目指しています。

初めは2反程度から、農薬や化学肥料を使わない栽培方法で始めました。農地拡大と共に、キノコを育て終えた菌床を使った「炭素循環農法」や、肥料を一切使わない自然農法に取り組みようになりました。1年間で8反程度に増え、フヨウやパンジー、ピオラなど、農地の特徴に合ったもの、旬のもの、そして私が「食

べたい」と思うものを中心に栽培しています。

農産物は食生活の中で欠かせない存在で、健康を語る上でも重要です。以前は福祉関係の仕事をしていて、健康を害する食生活も目の当たりにしてきました。心身共に健康でこそ、幸せを感じられると実感しています。オーガニックの魅力や、自然土で育った雑味のない農産物本来の味を多くの方に伝えたいと思っています。

エディブルフラワーは農水省のガイドラインに基づいて生産される食用の花ですが、農業界でも認知度は高くありません。見て、食べて、うれしくなり、癒やされる。心身の栄養を補ってくれる作物だと思ってい

ます。これからは耕作放棄地や遊休農地などを活用し、少しずつ農地を広げ、「食べるコスモス畑」「食べるヒマワリ畑」として観光化を目指しています。

お客さまは家族同様、安心、安全、そしておいしい食べ物をお届けしたい。お客さまがいつでも遊びに来られるようなファームにしていきたいと思っています。

◆プロフィール◆
いわき市出身。福祉仕事を経て、2018年に就農。エディブルフラワーやハーブ、珍しい野菜、果物、山菜などを栽培。有機種苗の自家採種にも取り組む。約30坪の「食べるコスモス畑」は事前連絡をすれば見学可能。問い合わせは佐藤さん 電話080(6255)9062へ。